

学習意欲を高める評価のあり方について考える (小学校外国語)

学籍番号 209307

氏名 北野 梓

主指導教員 加賀田 哲也

1. 研究背景

2020年度より小学5,6年生の外国語が教科化されたが、いまだ課題は山積している。その中でも、評価は大きな課題の1つであると言える。評価することで、子ども達が学習を振り返り、次の学びに生かせるだけでなく、教師自身の授業改善やカリキュラムの見直し、学校教育活動全体に至るまでの改善が期待されている。そこで、本研究ではどのように主体的に学習に取り組む態度を育成するのか、そして思考力・判断力・表現力等の育成のためにどのような足場掛けが有効なのか明らかにする必要があると感じられた。

主体的に学習に取り組む態度は、粘り強い取組を行おうとしている側面と自己調整しようとしている側面の2つの側面を評価することが求められている。Zimmerman (1994, 1998) は自己調整学習を「学習目標の達成に向けて、自らの行動や思考を組織的に適用していくような学習のこと」と定義しており、そこには循環的性質があることをふまえ、予見、遂行コントロール、自己省察の3段階の自己調整モデルを示している。

足場掛けとは、指導者が学習者に対して問題解決に必要な情報や援助を加えることによる、重要な学習支援方略の1つである。L. E. バークラ (2001) は、子ども達が助けを必要とした時は援助し、子どもの能力が十分発揮されている時は援助を減らすというように、指導者が子ども達の現時点での能力に合うように援助や教示の量を注意深く調整することが大切だとしている。

2. 研究手法

本研究の目的は、主体的に学習に取り組む態度と思考力・判断力・表現力等の育成であり、2つの実践を行った。実践1の協力者は、2020年度の国立大学附属小学5年生(105名)、実践2は、2021年度の公立小学6年生(13名)であった。実践1は、単元終了後のアンケート記述をM-GTAで分析した。実践2は、複数の単元で足場掛けを行い、ルーブリックを作成し、子ども達と共有した後、子ども達のパフォーマンスの変容を見取った。

3. 授業実践

実践1では、「できること」を伝える単元において、事前アンケートから明らかになった課題解決に向けた取り組みと、動画撮影での繰り返し練習をする等の自己調整に向けた手立てを行

った。実践2では、複数の単元（「夏休みの思い出」、「好きなスポーツ」、「将来の夢」等）において7つの足場掛け（デモンストレーションの提示、Tool Box の活用等）を行った。

4. 結果

実践1では、M-GTAで分析した結果、〈目標の意識〉、〈学びやすさ〉、〈自分の成長〉、〈理解の把握〉、〈やる気・動機付け〉、〈次への意欲〉の6つの概念が抽出され、これらの概念は、《予見》、《主体性》、《自己効力感》のサブ・カテゴリーに集約された。いずれも主体的に学習に取り組む態度を育むための構成要素であるため、【主体的に学習に取り組む態度】のコア・カテゴリーに集約できることが分かった。

実践2では、デモンストレーションを示したことで、既習語句や表現を加えて自分の考えや気持ちを伝える姿が見られた。単元を経るごとにa評価の子どもが増え、足場を減らすことができた。

5. 考察

①主体的に学習に取り組む態度の育成について

Zimmerman (1998) の予見、遂行コントロール、自己省察から成る自己調整モデルとの関連を考察すると、本時のめあてを提示することは予見ができ、自己省察しやすくなることが示唆された。また、自己効力感が生まれ、次の課題の予見へとつながると期待される。

②思考力・判断力・表現力等の育成について

教師によるデモンストレーションの提示や Tool Box の活用を足場として、子ども達はめざす a 評価の姿を達成できるようになることが分かった。さらに、複数の単元にわたりスモールステップの指導ができ、相手に質問をしたり繰り返したりして対話を継続する方略を身につけさせることになった。対話の継続を目指すことは、子ども達が相手のことをさらに知ろうとすることにつながり、相手意識や相互理解が深まったように感じられる。足場掛けを2単元活用した後は子ども達が自らその足場に頼っている姿は見られなかった。これは、足場に頼らず安心して取り組めた結果だと考えられる。

6. 課題と展望

主体的に学習に取り組む態度の育成では、明確な評価の規準を示しても、自己評価は子ども達の自己肯定感の高低や、記述の場合は「書くこと」の表現力や明瞭性が影響することが課題として挙げられた。また、実践2の子ども達が a 評価の姿を単元ごとに達成できたことは、1年生から外国語学習に親しんでいる子ども達で、これまでにさまざまな語句や表現に親しんできている素地があったことも影響したと考えられる。今回実践した足場掛けは、いかなる学習経験をもつ子ども達にも有効であると期待したいが、今後さらなる検証が必要である。